



リレーエッセイ

ハードルを越えて

おの かなと
小野 奏人さん
(鹿児島市)

45

水泳は、右半身麻痺のリハビリの一環として、小学校1年生の時に始めました。当時の担当コーチの勧めで大会に出場するようになり、2018年全国障害者スポーツ大会の福井大会で初優勝、2022年の栃木大会で優勝、さらに地元に開催された2023年の鹿児島大会でも優勝することができました。(全て25m・50m自由形)

鹿児島大会では、怪我の影響もあり、100%の力を発揮できませんでしたが、結果に満足したというか燃え尽き症候群のような感じになり、大会終了後は、半年以上も練習に意欲が湧きませんでした。その後も周囲から言われるまま水泳を続け、「自分は何のために泳いでいるのか」と違和感がありました。タイムが伸びない日も続き、気がつけば2024年の佐賀大会の1か月前になっていました。

そんな時、水泳をしている双子の兄に、正直に調子が上がらないことや、目標を達成して何を目標にすればいいのか分からない気持ちを相談してみました。兄から「お前の水泳への思いはその程度か。これまでの成績で満足しているのか。」と鼓舞され、やっと気持ちを切り替え、練習に熱が入るようになりました。

それでも思うようにタイムは伸びず、焦る気持ちもありましたが、試合形式で1回泳いでみたところ、良いタイムが出たことで自信につながりました。

迎えた佐賀大会では、体調も万全な状態で出場することができ、25m・50m自由形ともに大会新記録で連覇し、金メダルを獲得することができました。運も味方してくれたと思いますが、これまでかかわってきて下さった方々や、叱咤激励して支えてくれた兄には、感謝の気持ちでいっぱいです。

自分はマイペースな性格で、「目標までに間に合えばいい、なんとかなる」と考えることが多いです。水泳でもプライベートでも問題にぶつかった時は、一度離れて気持ちを切り替える時間を持つようにしています。考え過ぎて苦しくなるよりも、一旦問題から離れると焦りや不安も和らぐと思っています。

現在、鹿児島国際大学の社会福祉学科に在籍し、社会福祉士(ソーシャルワーカー)を目指して勉強しています。進学した理由は、自分自身が障害を持っているので、より障害を持つ人への親身なサポートや援助ができるのではと考えたからです。精神保健福祉や特別支援教育分野も学び続け、多方面で活躍できる力を付けたいと思います。

今は、水泳より学業を優先したいという気持ちが強いので、今後については、もう少し考えて、進路やこれからの目標を自分で決めようと思います。

乗り越えられないと思ったことも目標に向かって努力を続けていれば、次へ進むためのきっかけが得られると思います。時には休みながら、自分のペースで目標に向かって進んでいくことを大切にしていきたいです。



佐賀大会直後の写真。

学校やバイト先の人達が試合の中継を見てくれていたようで、嬉しかったです。



ハートピアかごしまや、自身の練習拠点でもある原田学園で、スイミングスクールのコーチとしてシーズン以外でも水泳にかかわっています。

